

2 9月の見通し

野 菜

9月出荷分については基本的に各品目順調に生育しているが、局所的な大雨や、7月の高温で花落ちなどの影響を受けた品目については入荷量が急減する可能性がある。特に中旬以降分はこれまでの降雨や今後の台風の発生状況、全国的な高温予報から見通しが難しい。「だいこん」は青森県産は順調だが、北海道産は長雨により道南では種が遅れ、上中旬の入荷が不安定となる見込み。「ねぎ」は北海道産の品質に不安が残るが、秋田県・青森県産は順調。

「きゅうり」は東北産が低温で生育不良となっており、関東産の生育は順調だが全体としては少なかった前年並となる見込み。

野菜全体では9月の入荷量は少なかった前年をやや上回り、単価は前年をやや下回る見込み。

果 実

「もも類」が終盤を迎える一方、「日本なし類」「ぶどう類」「りんご類」で入荷が増える見通しで、いずれも大玉・大房傾向。「極早生みかん」は高温・干ばつの影響により各地で小玉化が目立っており、今後の降雨による玉肥大の進展が焦点となる。

「ぶどう類」等、中秋節向けの輸出は9月第3週が需要のピークで、輸出が伸びれば相場の下支えが期待されるが、伸びない場合は国内販売の数量が増え、相場は軟調となる可能性がある。また、国内では彼岸需要が見込まれるが、11年ぶりの5連休で連休前後の荷動きは要注意。

果実全体では9月の入荷量は少なかった前年並で平年をやや下回り、価格は高値となった前年並で平年をかなり上回る見込み。

品 目	入荷量(t)		単価(円/kg)		備 考 (主産地の生育状況等)
	前年比	平年比	前年比	平年比	
トマト	⇒	↘↘	↘↘	↗↗	主産地は北海道、青森県。上旬は抑制産地からの入荷が始まるものの、夏秋産地の着果が悪く減量傾向の見込み。中旬には抑制産地が出揃い、夏秋産地の着果も回復するが、下旬には抑制産地の着果が悪く減量傾向の見込み。 月全体の予想入荷量は少なかった前年並で平年をかなり下回る見込み。
かんしょ	↗↗	↗	↘↘	↘	主産地は徳島県、千葉県、茨城県。徳島県産は5月の降水量不足から肥大が進まず小ぶり傾向で収穫・出荷は前進傾向。千葉・茨城は台風や大雨の影響少なく、正品率も高いことから平年をやや上回る入荷量を見込む。 全体としては、少なかった前年をかなり上回り、平年をやや上回る見込み。
日本なし	↗	↗	⇒	↗↗	9月上旬以降は「豊水」中心の販売となる。梅雨時期の降雨により肥大は順調で、大玉傾向。千葉県産「あきづき」、長野県産「南水」など、その他品種についても前倒し出荷かつ大玉傾向で「豊水」とともに前年を上回る箱数となる見込み。 予想入荷量は前年・平年ともにやや上回る見込み。
		増加		減少	

凡例			
⇒	平年並: ±2%	↗↗, ↘↘	かなり高, かなり低: ±6~15%
↗, ↘	やや高, やや低: ±3~5%	↗↗, ↘↘	大幅高, 大幅低: ±16%以上